

令和3年度策定 砂取校区社協行動計画書

砂取校区社会福祉協議会

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件作り）	校区社協としての取り組み	
人紡ぐ（ひとつむぐ）町・砂取	人権を基本とした共生社会の実現	高齢者	地域の認知症者への理解と社会参加	アンケートからも認知症への対応が分からないと答える人が多かった	認知症サポーターの養成・活用	◎認知症予防教室、認知症徘徊模擬訓練、男性専用サロンを計画実施、命のバトンの周知確認。 ◎ほっとネット砂取の研修を行動計画に沿った内容で実施（各専門団体に協力要請）。 ◎校区内の福祉事業所との連携はもとより各専門団体との連携強化。 ◎住民の相談窓口としての校区社協をアピール、慈愛園施設（「さんさん」等）の相談施設としての活用、地域の縁側づくりの可能性。 ◎熊本市社会福祉協議会自主避難サポート事業の協力、災害時生活継続プランの作成。 ◎災害時要援護者避難支援制度の登録推奨及び活用。 ◎校区ボランティア団体との効果的な交流、支援。 ※行動計画の進捗管理、検証を行う。各々の取り組みは優先順位をつけながら実施していく。	
			ひきこもり防止・社会活動参加	高齢、認知症者の社会参加できる場所が少ない	行動制限があるため各町内での居場所づくり 「お助け隊」（案）の組織化		
		障がい児・者	障がい者（身体・精神）への理解	アンケートからも障がい者への対応が分からないと答える人が多かった	住民（子どもを含む）が障がいを知る機会（研修等）を提供		
			バリアフリー（建造物のみならず人、行事についても）	障がいの種別によって利用しにくい機会や場所が多い	校区住民でのニーズ把握やアクセス点検（行事についても） バリアフリー度の客観的チェック		
		子ども・子育て	不登校児やヤングケアラーの把握と相談	問題が内在化しやすい把握の問題	各学校との連携、学校行事への住民参加、地域行事への生徒参加 相談出来る場所や居場所の提供		
			孤立している子育て世代への援助	虐待や精神的負担 子どもを育てやすい環境	すすすくサークルの周知強化 こんにちは赤ちゃん事業の際の相談介入強化		
		持続可能性	ボランティア・地域団体への参加促進	校区住民の部外者意識や部外者意識を減らす、個人負担が重い	ボランティア活動等に誰もが参加できるようにシステムの見直しや広報のあり方を考える（人材バンク設置も選択肢）		
			SDGsへの住民理解	環境保護ばかりクローズアップされるが人権意識についてもっと大事にすべき	まずSDGsの理解を深める研修を行う、法務局や県団体等の活用や連携		
		備えよ常に	災害防災	災害経験者として福祉的課題に対応	要配慮者の把握 援助の内容		災害時対応についてフィードバックする会を持つ、民生委員による要配慮者の把握、校区版BCPの作成
				日頃の防犯・防災意識への取り組み	校区を挙げての防災意識の向上、防災訓練の更なる周知 街灯、防犯カメラが充実していない		防災イベント（研修）の開催、消防団、熊本市消防局出水出張所との連携 防犯として問題点を具体的に挙げる